
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 359 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.10.24 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1081 部*****

□山崎農業研究所＝第 146 回 定例（現地）研究会のご案内

テーマ：里山再生と食の安全—放射能汚染と戦う原木しいたけ栽培—

【日時】 11 月 16 日（土） 12：00～16：30

【場所】「なかのきのこ園」（茨城県つくば市谷田部 飯泉孝司代表）

<http://www.nakano-kinoko.jp/>

筑波山の麓、原木しいたけ栽培、本物にこだわる 40 年、原木本数と生産量は
日本一、それが「なかのきのこ園」である。3.11 原発事故は、里山を汚染し原
木の供給を不能とした。出口が見えない放射能との戦いが続いた。そのなかか
ら自然・農・食の本来の姿を求め「里山の再生と食の安全」に取り組みを始め
た。そこには、TPP の不条理を読み解く鍵もある。

【集合】つくばエクスプレス ; みどりの駅

・ 11：45 集合 乗用車分乗で会食会場へ

参考.....つくばエクスプレス 「秋葉原」→「みどりの」 時刻表

(10：45－11：29, 10：52－11：45, 11：15－11：59)

【参加費】 500 円 【昼食費】 各自負担

【スケジュール】

・ 12：00～13：00

昼食（しいたけ BBQ、しいたけ農家との会食）

・ 13：00～14：30

(1)しいたけ栽培現場の見学

(施設、原木からの植生、原木の放射性物質除染装置など)

(2)里山（森）の散策

・ 14 : 30 ~ 16 : 00

(1) 生産者のお話

(2) 識者のコメント

・ 16 : 00 ~ 16 : 30

話し合い 解散 (16 : 30)

【参加申し込み】

参加希望者は事前に下記へご連絡下さい。

TEL : 03-3357-5916 (益永) e-Mail : y.masunaga@ntc-c.co.jp

□ 目 次 □-----

<巻頭言> TPP 交渉から脱退させよう 塩谷哲夫

<山崎農業研究所 37 回山崎記念農業賞表彰式

および総会記念講演 (速報要旨) >

2. 総会記念講演 : 電力需要に応える再生可能エネルギー

(2) ここまで進んだ小水力発電

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

<編集後記> 「伝統回帰」の時代

<巻頭言> TPP 交渉から脱退させよう

自民党・安倍政権は、案の定、やっぱり、自ら「聖域」と称してきた「コメ、麦、砂糖、乳製品、牛肉・豚肉」の重要 5 項目の農産物を、項目内を細切れにして“切り売り”する気らしい。5 項目を 586 細目に仕分けして、関税を撤廃するものを選んで差し出して、見かけ上の「自由化率」を高める算術的な操作をしようという企みらしい。そして、それは「本体」を守るための苦渋の決断だったと白をきるつもりなのだろう。その見返りに、関税を撤廃した品目に関わる業界には、それ相応の補助金をつけるから勘弁してくれというのだろう。

しかし、農産物は生きものと同じで、各器官を切りはなしたら生き物としての正常な機能に障害が出るように、一つの農産物の身体は、それを構成する部分の“足し算”で出来上がっているものではない。たとえば、コメの場合、玄米・精米 (これが「本体」だとして) に関税をかけたからといって安泰ではなく、砕米・米粉・米菓生地など (本体の調製品・加工品) が自由化されたら、その影響が本体に影響が及ぶことは間違いない。“子供だまし”の論法は通用

しない。どの農産物でも同様である。

そもそも、農業生産者は本体を生産しているのであって、細目化された部分の合成品を作っているわけではない。また、本体を原材料として調整・加工することを産業として成り立っている多様な企業が数多く成立している。また、本体生産には、それを完遂させるために、広範な企業や組織が関わっている。

産業関連分析の結果を見ると、農産物は、本体だけではなく、それを原料として派生するさまざまな商品を含めて、消費者の手に渡るまでに、実に多くの業種の企業、人々に支えられ、またそれらの産業としての成立に貢献して、本体の10倍もの生産額を生み出しているのである（『電子耕』348号、2013.3.22。「日本の農業“モノづくり”の実力」参照）。

このことから、細目切り売りによって自由化率を計算する算術が、農業とそれを取り巻く産業、経済の実態を反映しないものであることが明らかであろう。

なによりも、自民党は7月の参議院選挙の公約で、農産5品目等の関税を守れなければ「交渉脱退も辞さない」と宣言したのではなかったか。それは、不安を抱く国民を騙し、有権者の票を詐取する手口に過ぎなかったのだと言わざるをえない。

そして、安倍自民党がその手てくるだろうと“わかっていた”から、私たち（大学教員の会）は交渉参加の前に、「TPP参加交渉からの即時脱退を求める意見書」を安倍総理に提出し、その実現を迫ってきたわけである。

正体を現した安倍・自民党政権にTPP交渉からの即時撤退を要求しようではないか。

塩谷哲夫

山崎農業研究所 幹事、東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 37回山崎記念農業賞表彰式

および総会記念講演（速報要旨）>

期日：2013年7月27日（土）13：30～

場所：NTC インターナショナル

1. 山崎記念農業賞表彰式

(1) 選考委員長報告

(2) 受賞者ご挨拶

2. 総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

(1) クリーンな発電としてのローカルエネルギー

渡邊博氏 山崎農業研究所幹事

(2) ここまで進んだ小水力発電

新谷和男氏 NTC コンサルタンツ・小水力発電グループ代表

2. 総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

(2) ここまで進んだ小水力発電

新谷和男氏 NTC コンサルタンツ・小水力発電グループ代表

水力発電のCO₂への削減効果。例えばP=100kWの発電で70%効率で運転すれば、LNG火力発電と比べて一年間に284トンのCO₂削減効果が期待される。わが国で今後開発可能な3万kW以下の中小水力発電地点は2000ヶ所、285万kWはある。

水力発電のメリットは出力が安定していることである。太陽光には地域、時間変動がある。風力も変動が大きいなどそれぞれ特徴があるので、それらを組み合わせる利用することが望まれる。

小水力発電では富山県の土地改良区の「仁右衛門用水発電所」、鹿児島県の笠野原土地改良区の笠原発電所などが有名である。

小水力発電は地域の特徴を生かせる、環境に優しい再生可能エネルギーである。この技術はまだ未完成であり、今後の調査、開発が期待されている。

(文責 安富・田口)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.130』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

こうしてこの「くに」は変わるのか— TPP 交渉の行方◎小泉浩郎

第 37 回山崎記念農業賞贈呈式（長野県辰野町・倉澤久人）

〔選考委員報告〕◎田口 均

〔山崎記念農業賞を受賞して〕◎倉澤久人

〔お祝いの言葉〕◎月岡道孝

総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

I ローカルエネルギーの現状と展望◎渡邊 博

II 小水力発電の現状と課題◎新谷和夫

〔第 145 回定例研究会〕TPP 交渉参加を問う—選択肢は TPP だけか？

I TPP 反対運動について—米韓 FTA から何を学ぶか◎金 哲洙

II ラテンアメリカの「より良く生きる

(vivre bien) 運動」に学ぶ◎吉田太郎

特別寄稿：TPP 問題へのもうひとつの視座

・日本とアジア諸国が進むべきはアメリカ式の

「通商国家」への道ではない◎中島紀一

・ナショナルな価値と在所の価値との断絶、

原理主義の希望◎宇根 豊

〈TPP 参加交渉に思う〉

TPP は農村を元気にするか*寒河江 巖／振り上げた拳はどこへ*大河原幸一／

息苦しい未来への心配*多田 敦／酪農・乳業での経済一体化の方向への新た

な方策*石川秀勇／ぶれない農の営みを続けたい*北村 誠

〈随感〉2011.3.11 東京に一番近い原発・東海第二で

何があったのか...／塩谷哲夫

<編集後記> 「伝統回帰」の時代

先日、哲学者の内山節さんをゲストとする集まりに参加した。

内山さんは1年の約半分を群馬県上野村で暮らす。その上野村で、農家レストランや体験ツアーなどに取り組む「Yotacco」の黒澤恒明・美穂夫妻がまずは話し、コメンテーターを内山さんがつとめた。

ブログ : yotacco よたっこのよた

<http://yotacco.exblog.jp/i2/>

内山さんは「これからは、日本も地方も目指すのは『伝統回帰』ではないか」と言う。

上野村では、村の面積の90%以上を占める森林のエネルギー利用に取り組んでいる。村の森林資源を活かす。これ自体伝統回帰であるのだが、今日の伝統回帰は、新しい方法・技術とふかくつながっている。そのひとつの有り様が、木質ペレット加工とその利用である。村は工場を立ち上げ、大型の公共施設での暖房利用や、個人へのペレットストーブの貸し出しをはじめている。

燃料としての値段は灯油とくらべて少し安い程度。しかし、灯油代が村の外に出ていくのに対して、木質ペレットだと、森林伐採・搬出・加工も含めてお金が村の中をまわることになる。それへの着目や効果もまた、今日的でありながら、伝統的なお金のありように通じる。

黒澤さんたちは、たとえば、村の伝統的な結婚式を自分たちの(!)結婚式で再現したり、古民家を再生利用してレストランを始めたりしているが、それらもまた、伝統に帰るための新しい方法の追求につながると内山さんは言う。

まだまだ少数派なのかもしれないが、ムラを目指す若者達がふえている。里山への注目も着々とすすみつつある(『里山資本主義』)。3.11であらためてわかったことは、私たちは風土であるとか自然の摂理とかから離れては生きられないということ。人びとの暮らしが風土とともにあった時代の伝統に帰る、しかしその有り様・方法は今日的に、というのは、わたしたちにとってたしかに目標となるのではないか。

2013年10月24日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 - グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 360 号の締め切りは 11 月 05 日、発行は 11 月 07 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 359 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.10.24（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****